

《熊本県》

あまくさと うじき
【天草陶磁器】



【陶磁器の魅力はこんなところ！】

天草陶磁器は、日本一といわれる良質な天草陶石を使って焼かれる磁器と、地元の陶土を使って焼かれる陶器です。

天草は、天領（幕府の直轄地）であったため、藩の御用窯的なものではなく、村（87村）ごとに庄屋がいて、それぞれ陶石を売ったり、焼物を焼いたりして、振興をはかっていました。

磁器は約340年前に、陶器は約250年前に焼き始められました。純度の高い良質な天草陶石を使った透明感のある磁器や、性質の異なる^{ゆうやく}釉薬の二重掛けの技法を用いた^{なまこゆう}海鼠釉や^{こくゆう}黒釉の個性的な陶器が多く作られています。

《熊本県》

しょうだいやき
【小代焼】



【陶磁器の魅力はこんなところ！】

小代焼は、熊本県北部で約400年前から焼き続けられている陶器です。寛永9年（1632）に細川家転封に際し、豊前より移った牝小路源七と葛城八左衛門しょうだいさんが小岱山麓に登り窯を開いたのが始まりといわれています。肥後藩の御用窯として茶道の道具などが焼かれたほか、生活雑器も多く作られました。

鉄分を多く含み小石粒が多い小代粘土に藁灰・木灰・長石などを釉薬ゆうやくとして用い、陶器としては高温で焼成されます。味わい深い地釉じくすりに流し掛けの上釉うわぐすりがかかる、素朴で力強い作風に特徴があります。

《熊本県》

こうだやき
【高田焼】



【陶磁器の魅力はこんなところ！】

高田焼は、1632年（江戸時代初期）に現在の八代市で焼き始められたといわれています。細川家が豊前から肥後に国替えとなった際、上野喜蔵が豊前国上野から八代郡高田村に移り築窯しました。別名八代焼ともいわれます。

ミガキをかけた素地に文様を刻み、白い陶土を埋め込む象嵌という技法が使われています。透明釉をかけて焼成し、胎土に含まれた鉄分で碧色に発色しています。上品な色合いと端正な形状が特徴です。